

授業概要

科目名	音声障害				授業の種類	演習	講師名					
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年	後期
【授業の目的・ねらい】 音声障害をもたらす疾患や治療や訓練方法を理解し実臨床と机上での違いの理解												
【実務者経験】 姫路聖マリア病院等にて、言語聴覚士として音声障害分野リハビリの従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 音声障害とは何か理解をまた、音声障害の治療や疾患。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 机上での治療と実臨床での治療をリンクさせて実施できる。また基本知識を獲得する。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	音声障害（定義含）・声とは何か。											
2	喉頭の軟骨・関節・筋肉（内喉頭筋）、内喉頭筋の神経支配											
3	聴覚障害の検査と音声障害の検査											
4	音声障害の評価（グラバスケール）と代表的な疾患											
5	実臨床での声をイメージしてグラバス尺度を記載											
6	前回のおさらいと音声障害を引き起こす疾患について											
7	音声障害の分類と器質的疾患											
8	VHI、声の衛生指導、確認テスト											
9	音声障害の終了基準とベルヌーイカの喉頭閉鎖											
10	終了基準の続きと声の衛生の実施											
11	SDSと音声訓練の種類・音声外科・まとめ3											
12	訓練の実際と演習、SDSの演習											
13	訓練の演習											
14	訓練の演習											
15	訓練の演習											
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版 スライド資料+まとめ資料												
【準備学習・時間外学習】												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。												